

催せり定刻前早くも講演者たる法学博士堀江專一郎先生腕車を  
 駆て見えられ続いて学校より馬場愿治先生、佐藤正之先生、天  
 野徳也先生出席せらる之と前後して講演者たる長谷川如是閑先  
 生、廣井辰太郎先生を始め会員たる學員及びひ学生陸続として参  
 会し定刻前数百の多きを算ふるに至れり一方一般聴衆は再び得  
 難き現代一流の弁士の偉大なる抱負を聞かんと統統として参集  
 し流石横浜の誉とする同館大公会堂も為めに満員の盛況を呈す  
 るに至れり定刻を過ぐる二十分學員柏川保三氏の開会の辞あり  
 氏一流の論鋒は現代社会の欠陥を痛論し吾人同窓の一致団結国  
 難に処するの急務を力説し以て本会の必らずしも同窓相互の親  
 睦を図るを唯一の目的とする一種の社交的俱樂部に非ず真に文  
 化の先覚者としての吾人天賦の使命を完ふするに一致団決<sup>(結)</sup>を要  
 するの必要あるを説きて本会創立の意のある所を明かにし之を  
 以て開会の辞に代ふると結んで降壇すれば続いて本学教授廣井辰  
 太郎氏は『西洋より觀たる日本』なる演題の下に西洋視察の新  
 智識を以て縦横の氣を吐き日本文化の幼稚を慨歎<sup>(歎)</sup>し大に西洋に  
 学ふ可きものあるを説き又反対に日本独特の妙味を高唱して此  
 点西洋の模範たる可きを確心<sup>(心)</sup>すと論し更に転じて東洋思想と西  
 洋思想との異なるを明かにし前後一時間三十分の大講演は聴  
 衆に多大の感動を与へられたり續て満堂の拍手に迎へられて文  
 壇の權威我等社主幹長谷川如是閑氏登壇……氏の八字髭は氏の  
 風貌と共に満堂を圧するの概あり先づ演題未定の理由を述べ現  
 代政治の誤れるを論し氏独特の風刺と揶揄とを以て聴衆を唸ら  
 せて降壇すれば堀江專一郎博士は『法の淵源としての宗教』な

## 710 中央大学金港俱樂部発会式

〔法学新報〕第32卷6(366)号 大正11年6月5日

○中央大学金港俱樂部発会式 横浜在住の中央大学學員及び

学生を以て組織せられたる本会は去る二月二十六日午後五時よ  
 り横浜開港紀念会館に於て発会式を兼ね第一回文化講演会を開

る演題の下に法の淵源は宗教なることを各方面より論せられ現今道義の頽廢其極に達したるは道德と宗教の全く閑却せられたるものにして宗教心の復興は法の威力に絶大なる関係あることを説き多大の感動を与へらる次で西村定雄君の閉会の辞を以て講演会を終了す斯くして来賓及び会員は本館階上の大食堂に於て発会祝賀の大懇親会を開き宴、酣にして「デザートコース」に入るや粕川保三、馬場博士、安齊林八郎、奥村三樹之助の諸氏感想と激励の辞あり西村定雄君の挨拶あり十二分の歎を尽し且つ記念撮影を為して十一時を過ぐる頃散会せり因に当日出席者は学校側として馬場(愿)佐藤の両理事及び天野徳也氏にして講演者側として長谷川如是閑氏、堀江専一郎氏、廣井辰太郎氏にして会員として學員の部にて中島邦太郎、安齊林八郎、三澤房雄、奥村三樹之助、渡邊常太郎、長岡熊雄、本田典太郎、粕川保三、村田修二、官島久治郎、兒玉正太郎、寺田晴雄、近津丈吉、岡田伯、山口喜三太、遠藤興、木村壽平、遠山茂、尾形恒次郎、柳下佐治、鹽瀬三郎の諸氏にして又学生は西村定雄、石河京市、川名常保、森岡操、日高一雄、伊庭義敬、秋山義一、三枝松藏、久保宗之、西山忠三、佐野千秋、磯原恒夫、鹽原守雄、鯉淵弘、谷口博正、志賀篤、大河原成治、矢田一男、四元督二、園田弘、大久保興四郎、布施房吉、吉俣鐵太郎、小池亮作、青山柳一、山埜井信夫、鈴木幸夫、金子東司、加茂善二、賓田哲、高橋馨の諸君にして頗る盛会なりき(発起人報)